

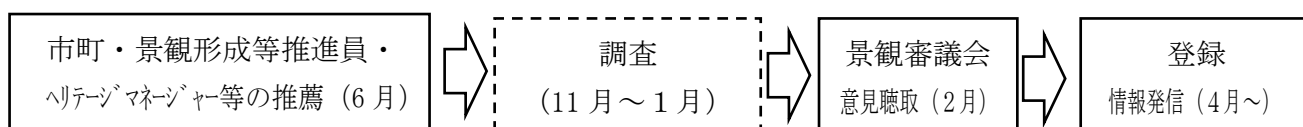
「景観遺産」登録制度

(概要) 景観形成地区等の指定には至っていない、地域特有の外観意匠を持つ建造物等をシリーズ化、歴史文化を有する景観をストーリー化して景観遺産として一括して登録・広く発信することで身近な景観の意義や魅力を県民に広く周知し、ふるさと意識の醸成や地域の活性化に繋がります。(景観の形成等に関する条例(第21条))

【検討・審議経緯と登録スケジュール】

- R4. 1 景観審議会に諮問
- R4. 3 景観の形成等に関する条例の改正・公布
景観遺産登録検討会で検討
- R4. 4 施行

【登録フロー】



【支援】

(1) 情報発信等

- ① 観光部局との連携による景観資源をめぐる周遊ルートの作成
- ② 観光旅行商品の参考となるよう旅行業協会への情報提供を実施
- ③ SNS (インスタ (フォロワー 1 万人超)、Twitter 等) での情報発信

(2) 景観形成支援事業の活用

- ① 維持・保全・活用に関する個別相談
- ② 活用方法における研修会への講師派遣
- ③ 住民団体による景観形成推進活動への補助 (研修、広報、集会等に要する費用)

【届出について】

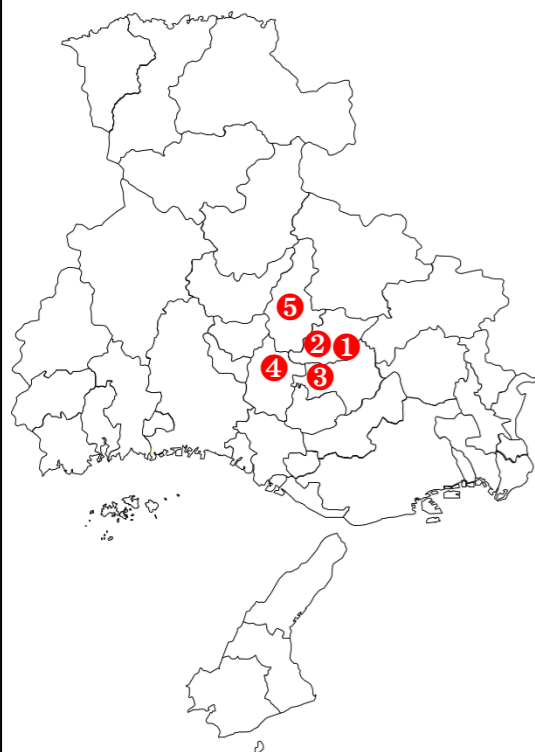
登録対象		届出の対象となる行為 (※1)	
地域の景観の形成に寄与する <u>建造物等</u>	建造物等	建造物又は建造物群	改築、増築、移転、修繕、模様替え、色彩若しくは意匠の変更又は除却
		樹木又は樹木の集団	移植又は伐採
優れた景観を有する <u>土地の区域</u>	景観の形成に重要なもの	土地	形質の変更
		建造物又は建造物群	改築、増築、移転、修繕、模様替え、色彩若しくは意匠の変更又は除却
		樹木又は樹木の集団	移植又は伐採

※1 上記の行為により、その優れた景観が著しく損なわれるおそれがあると認めるときは、必要な指導又は助言をすることができる。

※2 次に掲げるものは登録対象外

- ① 県景観条例による景観形成重要建造物、景観形成重要樹木、② 文化財保護法による重要文化財、国宝、史跡名勝天然記念物、特別史跡名勝天然記念物、③ 景観法による景観重要建造物、景観重要樹木、④ 県文化財保護条例による指定重要有形文化財、指定史跡名勝天然記念物⑤ 県環境条例による郷土記念物⑥ 市町文化財保護条例による指定文化財、⑦ 景観形成地区、⑧ 広域景観形成地域

自然光を採り入れるためにつくられた「ノコギリの刃」のような形状の屋根が連なる風景は、織物で栄えた地域の特徴的景観である。産業の衰退とともに展示・販売施設に転用されたものもあるが、今も尚まちなかに残る歴史的資産として、地域の歴史を物語る。



【登録する建造物】



① 播州織工房館 (西脇市)



② 遠孫織布 (西脇市)



③ 神結酒造 (加東市)



④ 織物工場跡 (加西市満久町)



⑤ 橋本裕司織布 (多可町中区)

【ノコギリ屋根について】

ノコギリ屋根は近代工場の象徴ともいえる存在で、産業革命当時の英国で、考案された屋根構造である。

織物工場において、採光は、生地の状態や色合いを見るために、直射日光を避けた、安定した照度の明かりが必要で、北側に向けた窓を設け、1日を通して均一の明かりを採り入れようとしていた。

また、屋根に窓が設けることで、広い作業場が確保できる利点があったこともあり、ノコギリの刃の形状の屋根に至った。

広い面積に均等に明かりを採り込むことができる「ノコギリ屋根」、織物産業で繁栄したまちなみを象徴するものである。

【工場といえば・・・】

昔の地図では、工場のあるところには、三角屋根と煙突が描かれていたといわれている。現在でも、工場のアイコンといえば同様の形状を示したものがよく使われており、ノコギリ屋根は、工場の象徴とも言える。

【織物工場が多い地域は・・・】

西脇市や多可町などは、加古川、杉原川、野間川が流れる地域で、染色に重要な水資源に恵まれており、織物産業に適している地域である。

各建造物について

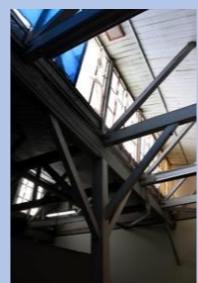
- ① 【播州織工房館 (西脇市)】
焼板を巡らせた外壁や木の格子窓が特徴的。播州織製品の販売・展示をはじめ、手織体験など、播州織の魅力を発信する。
- ② 【遠孫織布 (西脇市)】
昭和27年に創業し、ジャガード織物(播州織の一種)の工場として4代目のもと現在も操業。工場併設ショールームにて、オリジナル生地的一般販売も行う。
- ③ 【神結酒造 (加東市)】
織物工場跡を酒造の倉庫や冷蔵庫として活用。
- ④ 【内藤織布 (加西市満久町)】
織物工場跡を倉庫として活用。
- ⑤ 【橋本裕司織布 (多可町中区)】
昭和39年に平織物業として創業し、3代目のもと現在も操業。

のこぎり屋根の現状を伝える記事

「のこぎり屋根」の大部分、堤防工事で解体へ



神結酒造の「のこぎり屋根」の建物。全長約50メートル。このうち3分の2が解体される。全国でも珍しい光景で、関東から愛好家が訪ねて来ることもあったという



建物の中。漏れる光が往時の面影を語るようだ



残ったのこぎり屋根の建物は、倉庫や冷蔵庫として活用する

かつて播州織の工場を象徴した「のこぎり屋根」が消えようとしている。神結酒造(兵庫県加東市下滝野)では織物工場で使われていた建物を20年前から、社屋兼倉庫として利用してきた。だが6月、そばを流れる加古川に堤防を築くため大部分が解体される。地域の記憶を伝える屋根。その姿が変わる前にレンズを向けた。

のこぎり状の屋根は光を取り入れるため、停電が多かった当時の知恵と工夫から生まれたとされる。

旧滝野町では播州織の最盛期だった昭和30年ごろ、50以上の工場が操業、のこぎり屋根も各地にあったという。その後、安価な外国製などに押され、現在、加東市内では3社ほど。往時の面影を残す屋根も今は数えるほどしかない。

神結酒造の「のこぎり」は、戦後すぐに建てられたかつての織物工場。屋内は手直ししたが、外観はほぼ当時のままで20年前から使用する。

滝野地域では2004年の台風23号で加古川が氾濫し水害に見舞われた。国土交通省は約2・7キロの堤防を築く工事を17年から開始。周辺では家屋の立ち退きが必要で、同酒造の建物も3分の2は解体される。「地域が生活していくためには必要な工事」と同酒造専務の長谷川妙子さん。一方で昔の光景が失われ、寂しさを募らせる住民もいる。

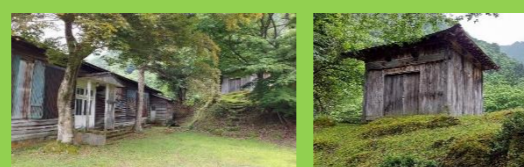
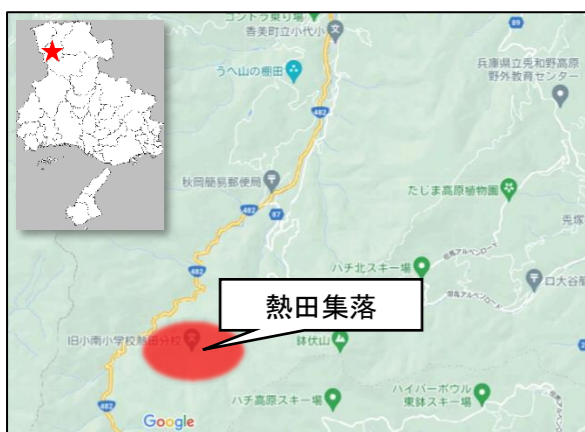
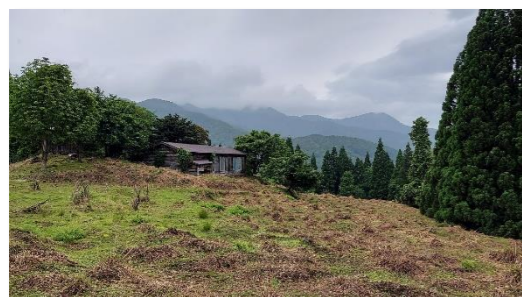
解体を免れる建物は窓をふさぐなどして、ほぼ現状のまま倉庫として使う。長谷川さんは言う。「これからも皆さんの心に残る酒蔵でいたい。工事を出発点とし、残った建物とともに、新しい姿を次代へ引き継いでいきます」

神戸新聞 (R3.4.19) より

純血種が奇跡的に残った“和牛の聖地” 廃村「熱田集落」

美方郡香美町
小代区新屋

豪雪地帯である香美町小代区の秘境に佇む熱田集落跡。但馬牛（うし）純血種が残った“和牛の聖地”として語り継がれ、2010年までの約30年にわたり、都市部からの自然体験教室を受け入れた、農泊のさきがけとなる民家跡が残る。



旧小南小学校熱田分校 観音堂

昭和16年、**熱田分校**開校。現在の校舎は、昭和34年に改築、移転されたもの。公衆電話が設置されるなど、集落の生活を支える施設でもあった。校舎から見上げたところに一体を見守る**観音堂**の姿。

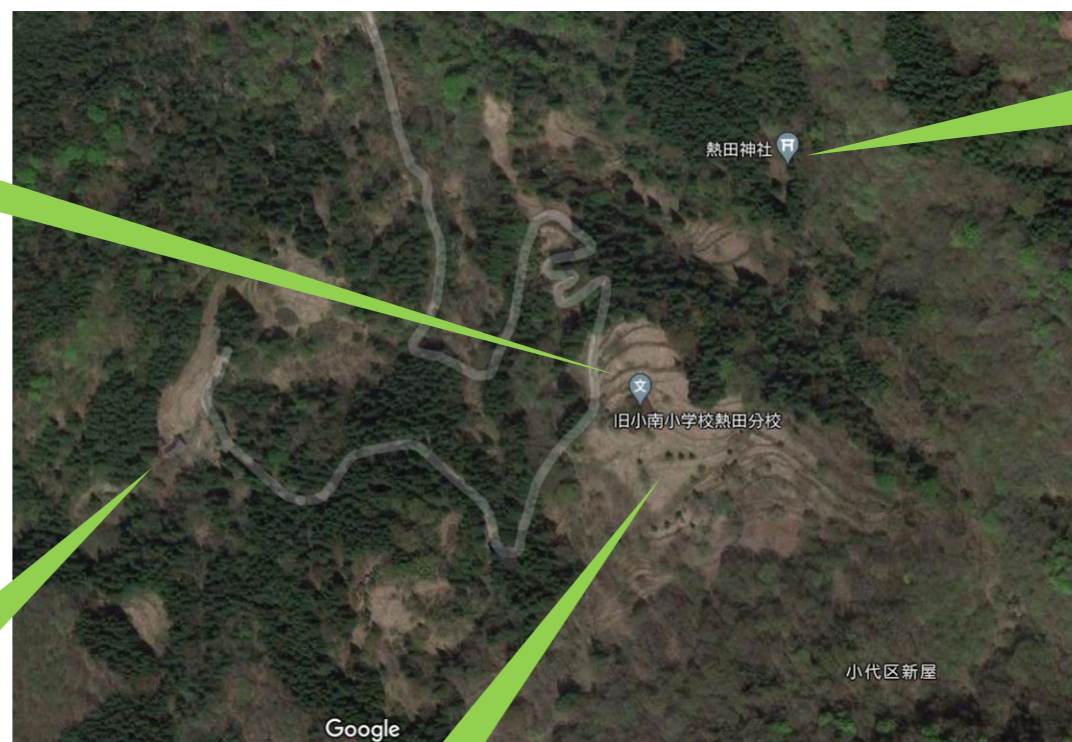


山間に佇む民家(田淵家)

牛と共に過ごしていた民家は、2010年までの約30年間、自然体験教室の受入施設として利用されていた。



標高約700mの山間では、傾斜地を利用した**棚田(水田)**や畑が広がり、山葵(わさび)が採れたり、柳行李(やなぎごおり)が作られるなど、牛が育まれる環境と景観が形成されてきた。



熱田神社

熱田集落は、約800年前、尾張国(現愛知県)の熱田神宮に仕えていた田野氏が家臣を連れて移住してきたことが起源とされている。**熱田神宮**から分祀された**熱田神社**が、この集落を見守っている。



関連施設

越冬住宅と牛舎跡(香美町小代区野間谷)

1969年(昭和43年)へき地の不便さに雪害が追い打ちとなり、全住民9世帯約50人が越冬住宅へ集団移転。現在居住するのは1世帯1人のみ。住宅横には牛舎を設け、共に移転した牛の世話をを行った。

ストーリー

約800年前	尾張国から熱田神宮に仕えた田野氏が移住(熱田集落、熱田神社の起源)	起源
1394~1428年	金銀銅鉄が掘り出され栄える	繁栄
江戸~明治~昭和	小柄で小回りがきく但馬牛は、田畑を耕すために飼われ、家族同様に大切にされていた。明治以降、外国の牛のように大きな体格のものにしようとして外国種との交配が進められたが、集落は山間部の谷筋にあり、他の村からも遠く離れていたため、交配を免れた純粋な但馬牛の血統が奇跡的に守られた。 熱田集落で育てられた牛は、熱田にちなんで「あつた蔓(づる)」と名付けられた。	奇跡
1939年(昭和14年)	全国の黒毛和種牛99.9%に血縁を持つ名牛「田尻号」が田尻松蔵さん宅に生まれる。和牛のルーツでもあり、有名な神戸ビーフの素牛。	和牛の聖地
1968年(昭和43年)	大雪の日、主婦5人が買い物からの帰宅途中に雪崩事故が発生	雪崩事故
1969年(昭和44年)	全住民が同町中心部に建設された越冬住宅に集団移転(熱田分校閉校)	集団移転
2020年(令和2年)	3月31日をもって自治会活動休止 昭和レトロな熱田分校、農泊のさきがけ「自然体験教室を受け入れた熱田の古民家」、純血種が奇跡的に残った“和牛の聖地”「あつた蔓」が生まれた里が佇んでいる。	廃村



田尻松蔵さんと但馬牛



分校前での記念撮影



但馬牛を引き連れ集団移転を行う様子



分校の周りの棚田等の風景



昭和38年豪雪ハコブターによる物資搬送



牛との生活の様子



越冬住宅(共同牛舎も建設された)

登録する景観の構成要素

旧小南小学校熱田分校、観音堂、熱田神社、牛と共に過ごしていた民家、棚田等、熱田集落の歴史・文化・生業に関わる景観とストーリー